

地域で輝く医療人に

名古屋市立大(名古屋瑞穂区)の医、薬看護の三学部は、学生に医療に携わる「医療

来春スタート

人」としての責任感を身につけてもらおうと来春から東海地方の離島や過疎地域の病院などで住民の要望を聞き

名市大3学部 離島山村学習

たりする「地域参加型学習」を始める。学生時代に地域の課題や魅力に接することで、地域を担う医療人を少しでも増やす狙い。

地域参加型学習は一年生の必修授業とする。三学部の学生計二百四十四人を二十四グループに分け、三河湾

の不満やニーズがあるかなどの課題をまとめて発表し、住民やスタッフと意見交換する。

文部科学省の大学教育・学生支援推進事業として三年間助成を受け、初年度予算は約二千三百万円。担当する早野順一郎

教授(医学・医療教育学)は「地域ならではの楽しさや醍醐味を若い人に伝えることで、中